物性物理学研究史資料のアーカイブ化を

中山正敏、河野洋人、吉野太郎、福山秀敏

物性研究所設立から50年近く、日本の物性物理学の発展は目覚ましい。しかし、科学史の分野では、例えば欧米の研究書において日本の寄与の記述は本多光太郎以後極めて少ない。また、日本においても素粒子研究の歴史については、神話。正史・外史が多数あり、それらが若者をひきつけている。これに対応する物性物理の歴史書は極めて少なく、その結果多くの若者は、小谷正雄、永宮健夫、高橋秀俊、久保亮五の名前すら知らない。

ここ数年、各大学、共同利用研究所のアーカイブ（文書、原稿、聞き書きなどの資料集合）は充実してきており、自然科学アーカイブ研究会もKEK,核融合研、極地研などで連続して開かれている。そこでも、物性物理については個人的な寄与が散発的にあるだけで、物性研の寄与はない。これらのことが、物性物理の学問と文化、社会とのかかわりを貧しくしている。

私たちは、物性グループとして物性研究のアーカイブの充実を図ることを提起する。さしあたり考えつくのは以下のことである。なお、「物性研だより」には歴史資料もあり、それを整理するだけでもアーカイブが作られよう。

1. 各大学、研究機関、研究グループでのアーカイブ化活動
2. 「物性グループ事務局報」などのグループ内資料の収集
3. 物性研究所にアーカイブ担当職員（他の研究所の例では専任者＋OB研究者）を置く。
4. 物性研究アーカイブの交流会を開く
5. 自然科学系アーカイブ研究会に参加する